

地産地消が学校給食に与える影響とその可能性

吉林裕理

本論文は、学校給食と地産地消に着目し、学校給食に地場産食材を利用することによる子どもたちや地域への影響、今後の課題について述べていく。

まず、学校給食というものは単なる食事ではなく、教育的意義を有した機会でもあり、子どもたちの成長においては欠かせないものである。このように子どもたちの学生生活において必要性の高い学校給食であるが、献立や仕入れから提供までの過程は学校ごとに異なる。そのため、学校給食に関わるものごとにそれぞれの考えがあり、地場産の食材の使用や給食費の値下げや無償化は子どもたちの為であるという考えがあっても、現状のシステムを容易に変更することは難しく、課題も多い状況にある。

次に、食とライフスタイルの変化と地産地消について考察すると、女性の社会進出や共働き世帯の増加といったライフスタイルの変化から子どもの個食・孤食にもつながり、全体として簡単な食事や欠食から人々が1日に摂取するカロリーの低下にもつながっていた。このような現状で、量ではなく質の良いものを食べることや食から地域とつながるきっかけとなる地産地消の取り組みは、健康にも子どもたちの成長においても良い影響を与えていることが分かった。しかし、地産地消を展開していくにあたっては生産者から消費者ごとに課題も多く、地場産食材を生産、流通のしやすい環境づくりが必要な現状にある。

これらを踏まえ、学校給食に地場産食材を使用している事例を見ると、規模の大きさや取り組み内容も異なるものの、生産と流通の環境を整えることができれば、消費者だけでなく生産者にとってもメリットの多い取り組みとなることが分かった。また、学校給食は食育の観点や子どもたちの健やかな成長という観点からもやはりその重要性は非常に高い。

このように多くの人に必要とされる学校給食に地場産食材を有効に活用していくには、学校給食を提供する側、食べる側の人たちだけでなく、地域や国としても地産地消や学校給食、子どもたちに対する意識をもって協力をしていかなければ取り組みは進まず、地産地消を利用した学校給食ならではの食育の効果も得られない。農作業から取り組み、色々な人たちと関わりながら作り上げたものを実際に食べるという経験から、消費者だけでなく生産者としての視点も身に付き、食のありがたみを感じられるようになるということからも、食育効果の得られる環境づくりは重要である。人間の生活において欠かせない食事だからこそ、子どもたちが食に触れる学校給食もうまく利用して地域や農業の活性化につなげていくことで、安心安全な食材の安定した生産からさらなる給食への地場産食材の利用拡大にもつながり、良い循環となるのではないだろうか。このように学校給食を通して、多くの人の安心安全かつ健康な食生活や地域農業の活性化から人々の生活がより豊かになることを望む。